

令和元年度園芸作物日照不足等技術対策情報

令和元年7月19日（金）

相双農林事務所農業振興普及部

1 気象情報

(1) 気象台発表の気象情報日照不足と低温に関する福島県気象情報 第1号

(令和元年7月8日福島地方気象台発表)

中通りと浜通りでは、6月28日頃から日照時間の少ない状態が続いています。この状態は、今後2週間程度は続くでしょう。また、中通りと浜通りでは、今後2週間程度は平年に比べ気温の低い状態が続く見込みです。農作物の管理等に十分注意してください。

(2) 向こう1か月の天候の見通し（7月20日～8月19日）

(令和元年7月18日仙台管区気象台)

東北太平洋側では、期間の前半は日照時間が少ない状態が続く見込みです。東北太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半、天気は数日の周期で変わるでしょう。向こう1か月の日照時間は、東北太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、平年並の確率50%です。

2 生育状況（7/16現在）

品目	生育状況等
トマト	【大玉トマト】 8～9段目開花となっており、概ね平年並みの生育であるものの、着色が進まず、出荷量は前年より少ない。 【ミニトマト】 4月下旬定植の作型では収穫開始、5月下旬定植の作型では、5段着花であり、いずれも生育は概ね平年並みである。 【病害虫】 灰色かび病の発生が拡大している。 害虫はほとんど確認されず、平年より少ない。
ねぎ	夏秋、秋冬作型ともに低温の影響は少なく生育は平年並み。 【病害虫】 ベと病の発生が拡大している。 一部で白絹病、軟腐病が発生している。 アザミウマ類の発生は少ない。
にら	【夏にら】 5月から収穫が始まり、9月末まで続く見込み。 【秋冬にら】 5月下旬～6月上旬にかけて定植。活着は良好で、生育は概ね順調。 【病害虫】 一部ほ場でアザミウマ類が確認されている。
たまねぎ	【秋まきタマネギ】 適期管理がされたほ場では、玉張りはおおむね良好で、収穫はほぼ終了。収穫が遅れているほ場では、一部腐敗が見られる。 【春まきタマネギ】 まもなく収穫開始。ベと病等の影響により、小玉傾向。 【病害虫】 （春まきタマネギ）多くのほ場で、ベと病の発生が確認されている。

品目	生育状況等
日本なし	果実肥大は、「幸水」で平年比縦径 106%、横径 109%、「豊水」で平年比縦径 109%、横径 113%であるが、園地内で大小のバラツキが大きい。 幸水の裂果は、7月上旬より始まっており前年より多い。 【病害虫】黒星病の発生が葉丙に見られ始め、6月より拡大している。害虫の発生は少ない。
トルコギキョウ	開花遅延傾向にある。草丈も平年より高い。 【病害虫】灰色かび病が発生拡大している。 一部ほ場で斑点病が確認されている。 アザミウマ類、アブラムシ類、ヨトウムシの発生も見られる。
キク	【盆咲き】開花遅延傾向にある。 【病害虫】白さび病の発生が拡大している。

3 今後の技術対策

(1) 共通

- ・明きょの設置など排水対策を徹底して湿害の防止に努めましょう。
- ・多湿、軟弱徒長により病害の発生が多くなるので、防除を徹底して被害防止に努めましょう。
- ・施設栽培では、日照不足による軟弱徒長を防止するため施肥量を調整するとともに、曇天後の強光による葉やけ等を防ぐため遮光カーテンなどの開閉をきめ細かに行いましょう。また、多湿にならないように空気循環や換気を行いましょう。

(2) 品目別

ア 野菜

- ・トマトについて、低温・多湿条件では、灰色かび病や葉かび病の発生が助長されるので、適切に防除しましょう。また、古い葉の葉かきを行い、風通しを良くしましょう。病原となるり病葉等は、早めに処分しましょう。
着果不良や肥大遅延が発生しやすく、着荷負担から草勢低下となりやすいため、不良果の摘果等により草勢維持を図りましょう。
- ・ネギについては、べと病防除を徹底しましょう。
- ・タマネギの未収穫ほ場については、晴れ間をねらって収穫を急ぎましょう。
- ・露地野菜（ネギ、8月定植のブロッコリー等）については、排水対策を徹底しましょう。

イ 果樹（ナシ）

- ・「幸水」裂果終了後から修正摘果を実施し、小玉、変形果を摘除して着果数を調整し、果実肥大を促進しましょう。
- ・徒長枝により樹幹内部に光が入っていない場合は、徒長枝せん除を行い日照不足の影響を軽減するとともに薬剤が良くかかるようにしましょう。
- ・黒星病の果実感染防止のため、8月上旬まで黒星病防除を徹底して行いましょう。

ウ 花き

- ・低温、多湿条件では、灰色かび病、きく白さび病の発生が助長されるので適切に防除しましょう。また、病原となるり病葉や病株は早めに処分しましょう。

農薬は、最新情報を確認し、ラベルを良く読んで使用しましょう。
収穫前の日数、散布濃度には特に注意が必要です。